

令和3年度

事業報告書

社会福祉法人津久見市社会福祉協議会

令和3年度事業報告

◆事業概要

災害の頻発や人口減少社会到来に加えて、新型コロナウイルスの感染拡大による貧困や社会的孤立の急激な拡大は、生活課題をさらに深刻化させるとともに、地域での支え合い活動についても休止・縮小を余儀なくされる等、地域福祉の推進にも甚大な影響を及ぼしています。しかしながら、このような状況下におきましても人との交流や地域とのつながりの継続を求め利用者や市民の要望は多く、創意工夫のもと新たな取組も取り入れたの地域福祉づくりや利用者支援を推進いたしました。

感染を予防しながら生活するwithコロナと呼ばれる時代の中において、日々感染状況が変化するとともに、市民の意識や福祉ニーズも変動する非常に厳しい中で事業運営でありましたが、市民の皆様と関係団体の参加と協力のもと、地域福祉の更なる推進を目指し、地域共生社会の実現に向けて取り組みました。

1. 法人運営の基盤整備

①理事会及び評議員会の開催

社会福祉協議会（以下「社協」）の運営・経営管理上の重要事項や適切な事業執行・基本方針等の決定を行うため、理事会及び評議員会を開催しました。開催状況は下記のとおりです。

<理事会>

第1回 令和3年6月3日

議決事項

- 評議員選任解任委員の選任について
- 評議員候補者の選出並びに評議員選任解任委員会の開催について
- 理事・監事候補者の選出について
- 令和2年度事業報告について
- 令和2年度一般会計収支決算報告について
- 令和3年度第1回評議員会の開催について

第2回 令和3年6月29日

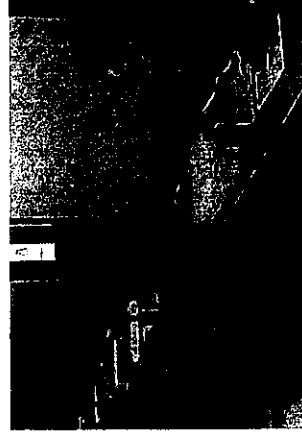
議決事項

- 会長・副会長の選任について

第3回 令和4年3月22日

議決事項

- 育児介護休業等に関する規程の改正について
- 事務処理規程の一部改正について
- 役員等賠償責任保険契約について
- 令和3年度一般会計収支補正予算について



- 令和4年度事業計画について
- 令和4年度一般会計収支予算について
- 令和3年度第2回評議員の招集について

<評議員会>

第1回 令和3年6月28日

議決事項

- 理事・監事候補者の選任について
- 令和2年度事業報告について
- 令和2年度一般会計収支決算報告について

第2回 令和4年3月30日

議決事項

- 育児介護休業等に関する規程の改正について
- 事務処理規程の一部改正について
- 令和3年度一般会計収支補正予算について
- 令和4年度事業計画について
- 令和4年度一般会計収支予算について



2. 財源の確保

①会員制度の推進と寄付金について

社協の重要な財源の一つが、市民の方々などから寄せられた会費や寄付です。こうした財源は、社協が民間組織として活気ある運営と事業の推進に欠かすことのできないものです。この財源確保に向け、より一層の理解と協力を得られるように努めました。

過去15年間の会員数の状況

年 度	住民会費 (500円/口)	賛助会費 (2,000円/口)	施設団体会費 (5,000円/口)	特別賛助会費 (5,000円以上)
平成19年度	7,165世帯	74事業所	13施設・団体	
平成20年度	7,126世帯	75事業所	18施設・団体	24名
平成21年度	7,051世帯	79事業所	20施設・団体	22名
平成22年度	6,869世帯	74事業所	21施設・団体	22名
平成23年度	6,910世帯	75事業所	22施設・団体	20名
平成24年度	6,838世帯	74事業所	21施設・団体	15名
平成25年度	6,778世帯	76事業所	18施設・団体	18名
平成26年度	6,578世帯	72事業所	22施設・団体	15名
平成27年度	6,595世帯	72事業所	23施設・団体	15名
平成28年度	6,481世帯	70事業所	23施設・団体	4名
平成29年度	6,388世帯	73事業所	24施設・団体	2名
平成30年度	6,307世帯	89事業所	24施設・団体	2名

令和元年度	6, 186世帯	81事業所	22施設・団体	2名
令和2年度	6, 128世帯	81事業所	25施設・団体	2名
令和3年度	6, 078世帯	77事業所	21施設・団体	2名

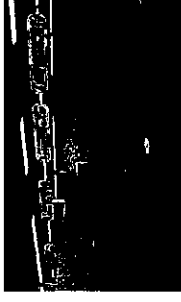
過去15年間の香典返し・寄付金の状況

年 度	香典返し寄付	一般寄付
平成19年度	4,970,000円	168,883円
平成20年度	5,075,000円	103,560円
平成21年度	5,040,000円	244,852円
平成22年度	4,833,000円	295,458円
平成23年度	4,735,000円	302,908円
平成24年度	5,480,000円 (242件)	1,134,844円 (金銭742,244円、物品392,600円)
平成25年度	4,515,000円 (219件)	353,410円 (金銭260,027円、物品93,383円)
平成26年度	4,426,000円 (219件)	384,072円 (金銭63,272円、物品320,800円)
平成27年度	3,460,000円 (185件)	353,981円 (金銭37,981円、物品316,000円)
平成28年度	3,227,000円 (162件)	267,575円 (金銭220,943円、物品46,632円)
平成29年度	2,496,000円 (140件)	1,403,119円 (金銭113,231円、物品1,289,986円)
平成30年度	2,133,000円 (141件)	152,187円 (金銭144,448円、物品7,739円、)
令和元年度	2,300,000円 (156件)	194,935円 (金銭181,975円、物品12,960円)
令和2年度	1,909,000円 (144件)	236,793円 (金銭236,793円、物品0円)
令和3年度	2,273,000円 (163件)	195,625円 (金銭175,165円、物品20,460円)

使途指定寄付金

年 度	寄付金額	備 考
平成29年度	384,770円	災害ボランティアセンター運営のため
平成30年度	100,000円	障がい者福祉の増進のため
令和元年度	0円	
令和2年度	80,000円	フードバンク事業の運営のため
令和3年度	0円	

3. 保健福祉ゾーン構想の推進に伴う総合相談窓口の充実
津久見市の保健福祉ゾーン構想の一翼を担い、保健福祉に関する相談窓口の一元化を推進しました。



① 24時間365日対応総合相談窓口事業

○ 土日祝日・夜間等に対応した相談等の実績

期間：令和3年4月1日～令和4年3月31日集計

部署	土日祝祭日				土日祝日	相談件数 合計	対応内容		
	平日 夜間早朝 1800~000 600~800	平日 深夜 000~600	土日祝祭日 日中 800~1800	土日祝祭日 夜間早朝 1800~000 600~800			000~600	電話による 相談対応	現場にて、 緊急対応
地域班 (前年度)	16件 (14件)	0件 (1件)	28件 (44件)	3件 (3件)	1件 (0件)	48件 (62件)	20件 (31件)	0件 (0件)	28件 (31件)
竹とんぼ (前年度)	12件 (17件)	0件 (0件)	9件 (11件)	0件 (1件)	0件 (0件)	21件 (29件)	12件 (10件)	0件 (0件)	9件 (19件)
包括 (前年度)	18件 (23件)	4件 (1件)	95件 (88件)	5件 (4件)	0件 (2件)	122件 (118件)	24件 (46件)	2件 (0件)	96件 (72件)
合計 (前年度)	46件 (54件)	4件 (2件)	132件 (143件)	8件 (8件)	1件 (2件)	191件 (209件)	56件 (87件)	2件 (0件)	133件 (122件)

生活全般の困りごと相談（離婚・相続・債務等）は、職員で対応し適切な機関へつなげました。

○ 生活全般の相談実績

No.	相談内容	R2 件数	R3 件数	No	相談内容	R2 件数	R3 件数
1	生計について	3	0	11	成年後見制度等について	1	3
2	年金について	1	0	12	人権・法律について	0	0
3	職業・生業について	0	0	13	財産について	1	0
4	住宅について	0	0	14	ストーカー・DVについて	0	1
5	家族について	3	0	15	児童について	1	0
6	結婚・離婚について	0	0	16	教育・青少年について	0	0
7	消費者トラブルについて	0	0	17	母子・父子について	0	0
8	ご近所トラブルについて	1	0	18	苦情について	2	1
9	健康・衛生について	2	1	19	その他（情報提供等）	3	13
10	医療について	1	0	合計		19	19

※福祉制度や社協業務に関する相談は、計上しておりません。

※包括・竹とんぼに関する相談は、別紙にて計上しております。

② 専門相談日の充実

複雑多様化する市民の方々からの相談に対処するため、専門相談日を設置し、ニーズに即した相談体制の充実を図りました。

○専門相談日の実績

	法テラスによる 法律相談		鳥越弁護士による 法律相談		司法書士による 法律相談	
	R2年度	R3年度	R2年度	R3年度	R2年度	R3年度
4月	1	3	1	0	0	1
5月	1	0	1	2	3	0
6月	0	2	1	1	2	0
7月	1	2	2	0	2	2
8月	2	2	3	2	0	1
9月	1	0	0	1	0	2
10月	0	2	1	1	0	0
11月	4	1	2	0	1	1
12月	0	2	0	3	0	0
1月	0	1	1	2	1	0
2月	3	0	0	1	3	2
3月	6	0	1	3	1	2
合 計	19	15	16	16	17	11

③市民ふれあい交流センターの運営

市民ふれあい交流センターは、地域福祉活動の拠点として様々な事業に活用しました。

	大会議室		調理室兼中会議室		ポランティアセンター兼小会議室		談話室	
	利用件数	利用人数	利用件数	利用人数	利用件数	利用人数	利用件数	利用人数
4月	19回	212名	0回	0名	11回	42名	13回	26名
5月	17回	135名	0回	0名	7回	15名	9回	17名
6月	24回	268名	0回	0名	7回	17名	10回	19名
7月	24回	333名	0回	0名	12回	40名	10回	16名
8月	18回	220名	0回	0名	10回	15名	13回	25名
9月	16回	143名	0回	0名	17回	57名	7回	15名
10月	18回	215名	0回	0名	15回	36名	11回	21名
11月	22回	281名	0回	0名	14回	29名	12回	16名
12月	18回	241名	0回	0名	10回	53名	12回	20名
1月	15回	131名	0回	0名	7回	21名	10回	16名
2月	21回	227名	0回	0名	2回	5名	12回	20名
3月	30回	349名	0回	0名	17回	44名	14回	28名
合 計	242回	2,755名	0回	0名	129回	374名	133回	239名

※コロナウイルス感染防止のため、利用人数を制限しました。

R2年度	141回	1,530名	0回	0名	137回	422名	99回	224名
------	------	--------	----	----	------	------	-----	------

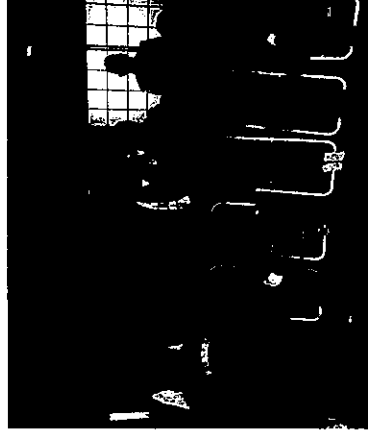
4. 地域福祉事業の推進

住民同士が連絡・連携をしながら、お互いの生活を支え合っていくための活動や仕組みとして、地区社会福祉協議会（以下「地区社協」）を、それぞれの地域に合った

形で取組が行えるよう、懇談会等を開催しました。

①地区社協による懇談会・交流会等の開催状況（令和3年度13回）

日付	自治会名	場所	内容
4月5日	堅浦区	堅浦公民館	総会
4月21日	保戸島区	保戸島出張所2階	サロン運営
4月28日	福良区	福良区公民館	役員会
5月20日	警固屋区	警固屋区公民館	総会
7月7日	川内区	川内会館	サロン運営
7月13日	川上区	志手町公民館	意見交換会
7月30日	長目区釜戸	釜戸公民館	サロン運営
9月24日	彦ノ内区	彦ノ内公会堂	研修会
12月14日	川上区	志手町公民館	役員会
12月14日	畑区	区長宅	意見交換会
3月23日	保戸島区	保戸島出張所2階	意見交換会
3月24日	四浦1区	漁村センター	意見交換会
3月29日	保戸島区	保戸島出張所2階	サロン運営



(川上区社協役員会)

②地区社協設立状況（令和3年度）

No	地区社協名	設立
1	地区社協青江	21年4月設立
2	地区社協福良	21年6月設立
3	地区社協四浦6	22年4月設立
4	地区社協徳浦	22年4月設立
5	地区社協警固屋	22年4月設立
6	地区社協網代	22年4月設立
7	地区社協江ノ浦	22年4月設立
8	地区社協赤崎	22年4月設立
9	地区社協川上	22年7月設立
10	地区社協日見	22年7月設立
11	地区社協千怒	22年10月設立
12	地区社協無垢島	22年12月設立
13	地区社協四浦1	23年2月設立
14	地区社協四浦2	23年2月設立
15	地区社協堅浦	23年3月設立
16	地区社協川内	23年4月設立
17	地区社協入船	23年4月設立
18	地区社協西ノ内	23年4月設立
19	地区社協長目	23年8月設立
20	地区社協畑	23年10月設立
21	地区社協中田	23年10月設立
22	地区社協岩屋	24年3月設立



(堅浦地区社協総会)



(福良区役員会)



(四浦1地区社協研修会)

23	地区社協四浦3	24年9月設立
24	地区社協保戸島	24年9月設立
25	地区社協宮本	25年4月設立
26	地区社協彦ノ内	25年5月設立

④ふれあいいきいきサロン事業

「ふれあいいきいきサロン」とは、小地域を拠点に、住民同士のつながりや絆を深めたり、高齢者等の孤立や閉じこもりの予防、生きがいづくり等を目的として進める活動です。

※ふれあいいきいきサロン事業の実績は別に掲載しています。

⑤ふれあい出前講座

知識や知恵、技術をもつ市民の方々に講師として社協に登録いただき、地区での研修やふれあいいきいきサロン等の講師として、派遣を行いました。

令和3年度 講師登録者：現在 32名・団体（無料）昨年度33名

No	講座内容	講師
1	健康講座（心と体の健康） レクリエーション指導	藤沢忠生（僧侶）
2	障がいと子育て支援について	NPO法人やまびこ理事 倉原英樹
3	紙芝居・朗読・紙工作等	図書館ボランティアたんぽぽ 吉田信子
4	お気軽健康体操	健康運動指導士 内田弘美
5	高齢者のための交通安全	津久見市交通安全推進協議会
6	交通安全教室	津久見市交通安全協会
7	うつ病・心の病について	精神保健福祉士 下田憲子
8	「尊い命」など	小田恭壽
9	おへまの介護保険	介護支援専門員 塩崎雄司
10	悪質商法撃退講座	大分県消費生活・男女共同参画プラザ
11	折り紙教室 居合演武	中津留弘 （津久見剣道連盟）
12	フラダンス教室	服部咲枝
13	高齢者の財産管理	鳥越徹（弁護士）
14	ハーモニカ演奏で歌おう	日名子正嗣
15	健康づくり	日本3B体操協会平川千恵子
16	知って得する電気のはなし	九州電力(株)佐伯営業所
17	ノルディックウォーキング体験	インストラクター井戸川幸雄
18	ハワイアン・フラ	エンジヨイツクミ
19	護身・空手による健康体操	山崎豊
20	はつらつ体操	しらうめ福祉会職員
21	いつでも元気津久見市	介護老人保健施設サテライトみなみ
22	中国変面と手品	佐藤寛倫（ミスターシユガー）

23	マジック	上田治美
24	医療、福祉、災害全般	大分赤十字病院
25	尺八演奏 他	津久見尺八の会
26	食育	NPO法人日本食育協会山口幸代
27	ロン先生の日本昔話	佐藤寛倫
28	音楽全般	津久見音楽友の会
29	吹奏楽演奏	SORIN BRASS
30	筋トレ・脳トレ・活き生き教室	佐藤真奈美(日本ヨガ療法士協会)
31	オカリナ・ハーモニカ・三線	みかんの花
32	ハーモニカ演奏とミニトーク	薬師寺直子
33	認知症サポーター養成講座	地域包括支援センター社協職員
34	体操☆レクリエーション	社会福祉協議会職員
35	軽スポーツ教室	

○有料登録団体・個人

社協ふれあい出前講座メニュー	
講座内容	講師
正しい薬の飲み方	NPO法人お薬研究会
県南落語	県南落語組台
シナプソロジー	麻生恵子インストラクター
笑いヨガ	大分笑いヨガクラブ モジユンダル由美子

○登録頂いた講師の方を派遣し出前講座を行ったケース(13ケース) ※敬称略

日付	団体名	講師名
4月8日	鳩浦イルカ島サロン	体操 内田弘美氏
4月8日	宮本区なかよしサロン	中国変面 ミスター・シュガー氏
4月9日	宮本区なかよしサロン	ヨーガ 佐藤真奈美氏
4月14日	津愛大学	健康管理センター 桑原氏
5月18日	じゃんけんぼん	ダイエット体操 内田氏
10月12日	旭きずなサロン	日本昔話 ロン先生
10月29日	田ノ浦サロン	中国変面 ミスター・シュガー氏



(ロン先生)



みかんの花

日付	団体名	講師名
11月18日	鳩浦イルカ島サロン	日本昔話 ロン先生
12月9日	宮本区なかよしサロン	オカリナ等 みかんの花
12月10日	宮本区なかよしサロン	オカリナ等 みかんの花
12月10日	元町サロン	マジックショー 上田治美氏
12月14日	津久見地区年金協会	中国変面 ミスター・シュガー氏
12月14日	津久見地区年金協会	健康講座 藤沢忠生氏

⑥障がい者交流事業（ふれあいバス旅行）

障がいのある方の中には、地域の中で交流する機会や外出の機会が少なく、生活状況が近所の方でも把握できない方がいます。このような状況の方々と接すると、表面化していない様々なニーズが潜んでいることに気付かされる場合があります。

社協では、この交流事業をとおして障がい者の社会参加の促進といるるな方々との交流の場の提供、ニーズの把握等に努めています。

令和3年度は、コロナウイルス感染防止のため中止といたしました。

⑦福祉施設・事業所等連絡会の開催
津久見市福祉施設・事業所等連絡会

市内には、多くの高齢者や障がい者の施設や福祉の仕事をしている事業所があります。津久見市福祉施設事業所等連絡会（以下「施設事業所連絡会」）とは、こうした施設や事業所の関係者が集まって、情報交換や意見交換をする場です。施設のある地域の人々はもちろん、多くの市民の方に施設の存在を知っていただき、施設同士でネットワークを組んで、津久見市の福祉の向上を目指します。令和3年度は、下記の内容で連絡会を開催しました。

（参加施設事業所：高齢者施設事業所16、障がい者施設事業所5）

令和3年度実績

開催日	協議内容
令和4年3月24日	①重層的支援体制整備事業について 市役所社会福祉課 主幹 中津留 久憲 氏 ②多機関協働事業について 社会福祉協議会 次長 石田 栄二 ③介護保険事業について 市役所長寿支援課 課長 黒枝 泰浩 氏

⑧関係機関団体ネットワーク会議

○区長・民生委員児童委員・介護予防推進員の合同研修会の開催

地区社協活動を推進するうえで、まず、区長・民生委員児童委員・介護予防推進員の三者の連携強化は欠かせません。この連携強化を図るために、三者の合同研修会を開催しました。

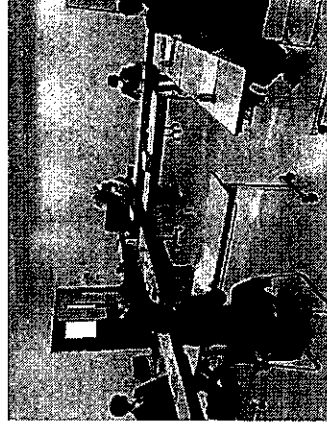
日付	研修会	参加者数
11月18日	区長・民生委員・介護 予防推進員合同研修会 （八戸区・無垢島区・ 赤崎区・江ノ浦区・四 浦1区～四浦6区・保 戸島区）	25名

日付	研修会	参加者数
11月24日	区長・民生委員・介護 予防推進員合同研修会 （中田区・西ノ内区・ 入船区・警固屋区・堅 浦区・福良区）	44名

※残り地区は、コロナ感染拡大に伴い延期。新年度に開催予定

○その他ネットワーク会議

- ・ボランティア協力校連絡会議（4月20日）
- ・ボランティア連絡協議会代表者会（中止）
- ・福祉施設事業所連絡会（3月24日）
- ・津久見小学校区連絡会（中止）
- ・堅徳小学校区連絡会（中止）
- ・青江小学校区連絡会（中止）
- ・千怒小学校区連絡会（中止）



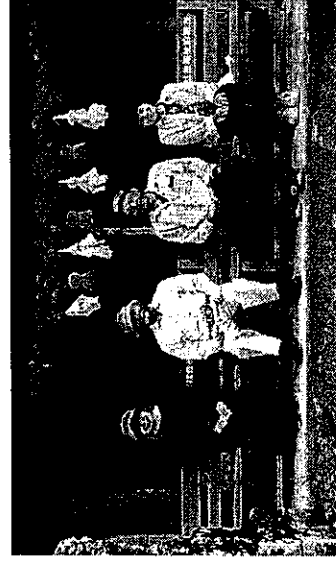
⑨ベンチ設置事業（公募・歳末配分）

津久見市建築士会の協力により、地区集会所、バス停留所にベンチを設置します。

令和3年度設置台数10台
共同募金による配分（日見区・入船区
西ノ内区・江ノ浦区・四浦1区）



（入船区）



（西ノ内区）



（江ノ浦区）

⑩地域助成事業（公募による配分）

市民の皆様から寄せられた共同募金を財源に、市内の福祉団体やボランティアグループ、自治会（地区社協）等の地域団体、社会福祉法人及び特定非営利活動法人等が行う市民の福祉向上のための取組に、助成を行いました。

令和3年度助成団体(上限5万円)

- ・中田区・川上区社協・長目区社協・福良区社協

5. ボランティア活動の推進

①ボランティアの登録及び支援事業：個人39名、グループ 23団体（414名）

グループ名	活動内容
・手話サークル「小嶋」	聴覚障がい者の手話通訳や交流活動
・ボランティアグループ「ふれあい」	施設での利用者の介助や行事介助等

・ボランティアグループ「のぎくの会」	各種イベント等の手伝い・福祉施設での作業手伝い等
・ボランティアグループ「ふれあい電話」	一人暮らし高齢者に対し、電話による安否確認
・ボランティアグループ「あけぼの会」	視覚障がい者の支援活動や交流活動
・図書館ボランティア「たんぼぼ」	図書館での朗読奉仕（子どもへの本の読み聞かせ）
・修繕ボランティア	高齢者・障がい者世帯に訪問し、家屋の簡易補修
・つくみ環境美化グループ	市内の公園や周辺の植樹・緑化活動、清掃活動
・ボランティアグループ「りんり」	公園やイベント会場の清掃活動
・たけの子の会、紫の会	小学校の書写時に硬筆・毛筆の指導
・NPO法人ピースワークつくみ	児童の自然体験学習他
・津久見音楽友の会	病院、施設等への訪問演奏
・食生活改善推進協議会	食生活の改善指導等
・くすの木サークルマザーグース	小学生に本の読み聞かせを行う（津小）
・おたすけ会	保戸島地区の高齢者・病人の通院、入院介助
・地域女性団体連合会	イベント運営支援など
・津久見高校ボランティア同好会	施設等での交流ボランティア
・シルバードライバー協議会	交通安全運動の推進
・野の花会	福祉施設への支援
・SORIN BRASS	吹奏楽演奏
・女性ドライバークラス	交通安全運転の推進
・収集ボランティア鈴の会	古切手や使用済みテレホンカードなどを中心に収集し福祉団体等に送付

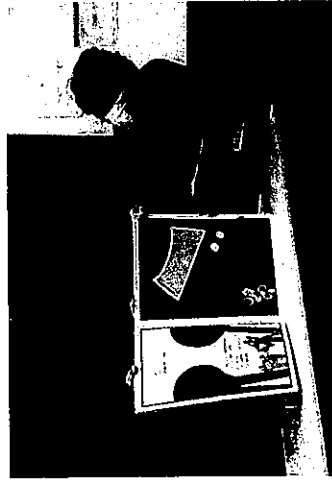
（個人登録）

・服のリフォーム（2名）	高齢者や障がい者の服のリフォームを行う
・音訳ボランティア（4名）	市報や社協だよりをテープに音訳編集し、視覚障がい者世帯に郵送
・夏のボランティア体験月間（4名）	夏休みのボランティア体験月間をきっかけに登録
・出前講師個人登録（22名）	自分の技能・技術・資格を生かし講師登録
・出前講師団体登録（13団体）	団体として、講師登録
・その他（4名）	自分の出来る時間に活動

②ボランティアの幹旋状況：ボランティアを必要とする方への派遣を行いました。

令和3年度幹旋実績：29回

ボランティア幹旋状況内訳		
ボランティア活動内容	件数	備考
・修繕ボランティアとして	6件	社協を介さず直接活動しているものは、計上しておりません。
・ふれあい出前講師として	13件	
・福祉体験学習講師として	7件	
・その他(古切手・シトラスリボン等)	3件	



(図書館ボランティアたんぼぼ)



(修繕ボランティア)

- ③ボランティアコーディネーターの設置
ボランティアコーディネーターを設置し、ボランティアに関する調査、育成・発掘、情報収集や発信を柱として運営を行っていきました。



○ボランティア活動に関する相談件数

相談内容	相談件数		
	令和元年度	令和2年度	令和3年度
登録に関する事	32件	68件	54件
派遣に関する事	28件	16件	22件
活動に関する事	69件	65件	89件
個人・団体等の支援及び意見交換	98件	196件	114件
情報提供・発信に関する事	44件	47件	40件
連絡協議会に関する事	18件	14件	7件
その他相談件数	40件	19件	13件
計	329件	425件	339件

④ボランティア協力校関係

ボランティア協力校とは、学校関係者と社会福祉関係者及び地域住民が協力し合っ
て計画的・系統的に子ども達にボランティア活動の場や世代間交流の機会を提供し、
その実践体験を通して「優しさ」「いたわり」「行動する勇氣」と「自主性」を養い、
社会奉仕と社会連帯の豊かな心をもつ人間として育てることを目的として創設された
事業です。

令和3年度の活動協力校：市社協指定7校（小・中・高校）

令和3年度 ボランティア協力校活動実績

	津久見小学校	青江小学校	堅徳小学校
福祉体験学習	福祉体験学習	福祉体験学習	福祉体験学習
・美化運動	・美化運動	・美化運動	・地域の方々との交流事業
・地域の方々との交流事業	・うばめ園、青葉会との交流	・うばめ園、青葉会との交流	・施設イベントの手伝い
・花いっぱい運動			・クリーンアップ清掃運動

活

動 内 容	千怒小学校	保戸島小学校	第一中学校
	<ul style="list-style-type: none"> 福祉体験学習 めだか公園管理 一人一鉢花育て運動 	<ul style="list-style-type: none"> 地域清掃活動 施設での交流事業 学習発表会 	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ運動 歳末助け合い募金活動 地域高齢者へ年賀状
	第二中学校	保戸島中学校	津久見高校
	<ul style="list-style-type: none"> 福祉体験学習 ペットボトルキャップ回収 地域清掃活動 花いっぱい運動 	<p>本年度休校</p>	活動休止

○福祉体験学習について

(社協職員と協力校とで福祉体験学習のメニュー作りを行い取り組みました。)

①津久見小学校で福祉体験学習

「福祉」について考える学習として4年生が取り組みました。

車いす・高齢者疑似体験セットを使って福祉体験を行いました。

車いす・高齢者疑似体験学習(10月8日 4年生 59名)

車いす・高齢者疑似体験学習を行いました。

車いすの操作方法や学校内を移動し困難さを学んだり、また、体に高齢者疑似体験セットの装具をつけた子ども達は、おばあちゃんになった子も達は、封筒を開けてみたり、本を読んだり、さまざまな体験を行いました。



認知症サポーター養成講座(10月15日 4年生 59名)

認知症キッズサポーター養成講座を開催しました。認知症の人やその家族が困っていたら、優しく声をかけたり、あたたかく見守るなどの手助けができるように学習を行いました。



車いす・高齢者疑似体験学習(10月26日 4年生 59名)

車いす・高齢者疑似体験学習を行いました。

車いすの操作方法や学校内を移動し困難さを学んだり、また、体に高齢者疑似体験セットの装具をつけた子ども達は、おばあちゃんになった子も達は、封筒を開けてみたり、本を読んだり、さまざまな体験を行いました。



絵手紙教室（11月9日 4年生 59名）

車いすで生活をしている原野彰子氏を講師に招いて絵手紙体験教室と普段の暮らしの中で不便なことについてのお話をさせていただきました。



障がいについて学習会（11月12日 4年生 59名）

サポートセンター竹とんぼの相談員より、「障がいについて」の説明があり、障がいについての理解を深めました。



車いすバスケットボール（12月3日 4年生 59名）

車いすバスケットの選手たちと交流会を行いました。事前に準備した質問に選手たちが答えてくれた後、車いすバスケットの体験を行いました。



◎青江小学校で福祉体験学習

「福祉」について考える学習として4年生が取り組みました。

認知症サポーター養成講座（12月3日 4年生 28名+保護者23名）

認知症キッズサポーター養成講座を開催しました。認知症の人やその家族が困っていたら、優しく声をかけたり、あたたかく見守るなどの手助けができるように学習を行いました。



いのちの授業（2月16日 4年生 28名）

大分県助産師会から講師をお招きし、いのちの授業を行いました。神秘的ないのちの誕生や妊娠、出産の知識をわかりやすく伝え、知ってもらったことによりいのちの尊さを学びました。



◎堅徳小学校で福祉体験学習

「福祉」について考える学習として4年生が取り組みました。

車いす体験（10月29日 4年生 16名）

車いすを使って福祉体験学習を行いました。



絵手紙教室（11月16日 4年生 16名）

車いすで生活をしている原野彰子氏を講師に招いて絵手紙体験教室と普段の喜しの中で不便なことについてのお話をさせていただきました。



講話・アイマスク体験（12月16日 4年生 16名）

視覚に障がいのある麻生恒雄氏を講師に招き、パラリンピックに出場した時の話やユニバーサルデザインなどのお話をさせていただきました。その後、アイマスク体験を行いました。



◎千怒小学校で福祉体験学習

「福祉」について考える学習として4年生が取り組みました。

認知症サポーター養成講座（11月19日 4年生 26名）

認知症キッズサポーター養成講座を開催しました。認知症の人やその家族が困っていたら、優しく声をかけたり、あたたかく見守るなどの手助けができるように学習を行いました。



絵手紙教室（12月20日 4年生 26名）

車いすで生活をしている原野彰子氏を講師に招いて絵手紙体験教室と普段の喜しの中で不便な事についてのお話をさせていただきました。



⑤第二中学校で福祉体験学習

「福祉」について考える学習として2年生が取り組みました。

絵手紙教室（9月28日 2年生 40名）

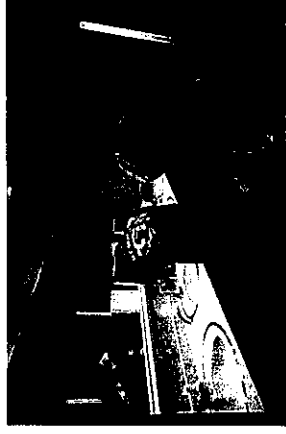
車いすで生活をしている原野彰子氏を講師に招いて絵手紙体験教室と普段の暮らしの中で不便なことについてのお話をいただきました。



⑥夏のボランティア体験学習

夏休みを利用した、ボランティアな福祉活動を体験することにより、自分たちが住む地域社会の現状やその中で行われる福祉活動に対する理解と、ボランティア活動への積極的な参加を促進するものです。令和3年度も各施設において、ボランティア体験を実施しました。

令和3年度実績：3施設において4名の中学生・高校生が参加（令和2年度は7名参加）



（あゆみにて）

6. 災害に関する取組

大規模災害や局地的豪雨災害などによって被災した地域の復興や被災者支援における災害時のボランティア活動の重要性を認識し、災害ボランティア事前登録や育成、さらには活動環境の整備を進めました。

①災害ボランティアの事前登録及び育成に関すること

市内外で起こる大規模災害から局所的な災害に備え、万が一災害が起きたときに迅速かつ効果的に復旧・復興活動が行えるように事前の災害ボランティア登録制度を進めました。また、平常時から登録したボランティアの研修、情報交換などを行いました。

○災害ボランティアの事前登録者

団体登録 … 9団体（425名）

個人登録 … 3名

②災害ボランティアセンターの体制整備に関すること

災害ボランティアセンターの運営を支援するボランティア関係機関、団体、企業、NPO、行政などが連携し、被災者ニーズに即し、円滑に支援できる体制づくりを進めるために、災害ボランティアネットワーク連絡会を設置し、情報交換や研修などを行いました。

○災害ボランティアネットワーク連絡会参加団体

参加団体 … 10団体

- ・大分教区カリタス カトリック津久見教会
- ・グリーンコープ生活協同組合おおいだ
- ・天理教大分教区被災者支援チーム
- ・津久見市防災士会
- ・津久見市民生委員児童委員協議会
- ・大分県建築士会 津久見支部
- ・中部振興局 総務部第1班
- ・津久見市総務課防災・地域コミニティ班
- ・津久見市職員労働組合
- ・津久見応援メディア うみかぜラヂオ

○災害ボランティアネットワーク連絡会の開催状況

災害ボランティアネットワーク連絡会

月 日	参加者	協 議 内 容
8月6日	13名	<ul style="list-style-type: none"> ・津久見市災害ボランティアセンター運営マニユアルの見直し ・各団体からの活動報告

7. 県社協よりの受託事業

①日常生活自立支援事業（旧地域福祉権利擁護事業）

判断能力の不十分な認知症高齢者、知的障がい者または精神障がい者等でかつ親族等の援助が得られない方に対して、福祉サービスの利用手続きやそれに伴う日常的な金銭管理等を行い、在宅や施設・病院における日常生活を支援する事業です。

<利用対象者>

判断能力に不安のある認知症高齢者、知的障がい者または精神障がい者等で、かつ、親族等の援助が得られない方

<支援サービス内容>

- ◆福祉サービスの利用援助
- ◆福祉サービスに関する情報提供
- ◆福祉サービス利用料の支払い援助
- ◆日常的な金銭管理サービス
- ◆年金、手当などの受領確認
- ◆日常的な生活費の払い出し、預け入れ
- ◆医療費、公共料金、家賃等の支払い等
- ◆書類、通帳、保険証書、実印、銀行印等の預かりサービス

<利用料>

①専門員による訪問相談、支援計画の作成	無	料
②契約後の生活支援員による援助		
<ul style="list-style-type: none"> ・福祉サービスの利用のお手伝い ・日常生活に必要な手続きのお手伝い ・日常的なお金の出し入れのお手伝い 		1回あたり1,330円
③大切な書類などのお預かり		1カ月あたり500円

<申込方法>

津久見市社会福祉協議会に備えてある利用申込書により申請していただきます。事前にご本人と面会し、専門員が相談調査を行います。

<例えば> 通帳や印鑑の紛失や、家賃や新聞代の支払いを忘れてしまうことが多い
なり、遠くに住む家族も心配になっていたAさん（ひとり暮らし高齢者）の場合。
あんしんサポートセンターの生活支援員が、月に2回の訪問（回数は利用者ごとに話
をして決定）をする中で、家賃や新聞代の支払い、生活費の支払いを支援して月々の
滞納をなくし、通帳や印鑑については、あんしんサポートセンター内の金庫にて保管
することで紛失を防ぐこととなった。

利用者区分	相談、契約の状況							相談内容
	相談件数			契約件数				
	R1	R2	R3	R1	R2	R3		
認知症高齢者	1	3	5	0	0	0	0	• 日常の金銭管理
知的障がい者	2	3	1	2	1	1	1	• 福祉サービスの利用について
精神障がい者	3	3	1	2	1	1	1	• 今後の生活設計等について
その他	0	0	2	0	0	0	0	• 事業についての内容照会
計	6	9	9	4	2	2	2	

* 令和3年度未契約件数：10件（令和2年度9件）

内訳（認知症1件、知的障がい者6件、精神障がい者3件、解約者1件）

②生活福祉資金貸付事業

生活福祉資金貸付制度は、他の貸付制度が利用できない所得の低い世帯、障がい者や高齢者世帯に対して、その世帯の生活の安定と経済的自立を図ることを目的に、資金の貸付と必要な相談支援を行います。

<貸付対象者>

- ◆ 低所得世帯
世帯の収入が本事業の収入基準（生活保護費の1.8倍以内）を超えない世帯
- ◆ 障がい者世帯
身体・知的・精神等の障害者手帳の交付を受けた方の属する世帯
- ◆ 高齢者世帯
日常生活上、療養または介護を必要とする、おおむね65歳以上の高齢者が属し、その収入が本事業の収入基準を超えない世帯

<貸付金の種類>

- ◆ 福祉資金
低所得者、障がい者又は高齢者の世帯に対し、資金の貸付と必要な相談支援を行うことで、経済的自立及び在宅福祉、社会参加の促進を図ることを目的とした貸付制度です。

- ◆ 教育支援資金
低所得者世帯を対象に、学校教育法に規定する高校、短大、大学、高等専門学校に就学するために必要な経費を無利子で貸付する制度です。

- ◆ 総合支援資金
失業や減収により生計維持が困難になり、生活再建のための継続的な相談支援を必要とする世帯に対して資金を貸し付ける事で世帯の自立を支援する制度です。（原則、生活困窮者自立支援窓口での相談が必要です。）

- ◆緊急小口資金
傷病、賃金の未払い等の原因により、一時的に著しい生活困窮に陥ったときに貸付する制度です。
- ◆不動産担保型生活資金
住み慣れた我が家で老後を送れるように、所有しているお住まいの土地・建物を担保として生活資金を貸付する制度です。（土地評価額1000万円以上）

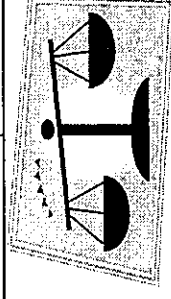
<貸付決定>

貸付は、大分県社会福祉協議会が審査を行います。審査結果によっては、資金の貸付ができない場合があります。

相談延件数		相談内容
令和元年度	令和2年度	令和3年度
85件	79件	128件
緊急小口資金・教育支援資金・総合支援資金など（特例貸付を含む）		

資金種別	貸付件数		
	R1	R2	R3
教育支援資金	0件	0件	0件
福祉資金（福祉）	2件	0件	1件
福祉資金（小口）	2件	4件	6件
総合支援資金	0件	1件	2件
計	4件	5件	9件

令和3年償還完了等件数	
種別	件数
償還完了	4件
償還免除	0件
延滞利子免除	0件
申請却下	0件



○貸付の累計件数（本年度契約分含む）

資金種別	累計件数	
	福祉費	緊急小口資金（コロナ特例除く）
福祉資金	4件	11件
教育支援資金	5件	3件
総合支援資金（コロナ特例除く）	1件	0件
離職者支援資金	0件	0件
計	24件	14件

◎新型コロナ特例貸付については、別紙のとおり。

③フードバンクおおいた事業

フードバンクとは、賞味期限内でまだ十分食べられるにもかかわらず、箱が壊れたり、印字ミスなどで販売できない食品などを、企業や家庭から寄付してもらい、食べ物に困っている人や福祉施設（団体）などに届ける事業です。令和3年度も支援を必要とされている方へ食料支援を行いました。

- 【提供していただきたい食料品】：常温で長期保存（1ヶ月以上）が可能で簡単なもの
- ※食料品の確保は、県社会福祉協議会が行っています。（県社協より市社協へ配布）
- ※食料品の支援は、個人に対しては、基本的に1回限りです。

令和3年度実績

食料支援を行ったケース

利用者区分	支援件数					
	H29	H30	R1	R2	R3	
高齢者一人暮らし男性	4	2	3	1	2	
高齢者一人暮らし女性	0	0	1	1	0	
高齢者夫婦世帯	0	1	1	0	1	
高齢の親と子供の世帯	1	0	0	3	2	
母子世帯	3	0	0	0	0	
60代男性一人暮らし	0	0	0	0	2	
50代男性一人暮らし	1	3	3	0	5	
50代女性一人暮らし	1	0	0	2	1	
40代男性一人暮らし	0	0	1	0	2	
40代女性一人暮らし	0	0	0	0	1	
40代夫婦と子供の世帯	0	0	1	0	0	
兄弟で同居の世帯	0	0	0	0	4	
計	10	6	10	7	20	

※20件の内、コロナ関係10件

8. 津久見市よりの受託事業

①地域包括支援センター―社協

地域における高齢者総合相談・支援、介護予防マネジメント、包括的組織的マネジメントを担う機関として事業の充実の充実に努めました。

※包括支援センターの実績は別紙にて

②障がい者の相談窓口

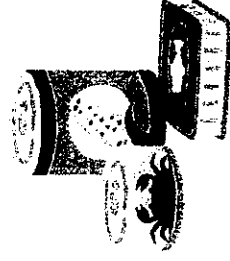
障がい者指定相談事業所サポートセンター竹とんぼとして、障がい者や家族、介護者等からの相談に対し、必要な情報提供やサービスの利用援助等を行いました。

※竹とんぼの実績は別紙にて

③生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）の活動推進

◆生活支援コーディネーター設置の背景

国は増加する介護に関する予算を少しでも削減したいという狙いで、介護保険制度の見直しを行いました。その中で、新たに制度設計され仕組みの一つが、この生活支援コーディネーターの設置です。高齢の方が、健康で地域において生活するためにはいろいろな課題の改善が必要となります。日常生活の維持に必要な買い物や掃除・外出支援、高齢者が生きがいをもって参加できる活動がこれまでに以上に必要となり、お互いに支え合う多様な活動の充実が不可欠となります。このような、高齢者が抱える課題を少しでも解決する仕組みづくりを行政関係機関と協力して整備することを目的として、生活支援コーディネーターの設置が行われました。



◆生活支援コーディネーターの役割

役割	①地域ニーズと資源の状況の見える化、問題・課題等の提起 ②多様な主体への協力依頼（働きかけ） ③関係者とのネットワーク化の推進（連携の体制づくり、情報共有等） ④生活支援の担い手の養成、地域に不足するサービスの開発 ⑤地域の支援ニーズ（課題）とサービス提供主体とのマッチング
配置状況	職員3名で担当

<生活支援体制整備事業の経過>

27年度の取組	○高齢者の生活課題把握と分析、市内社会資源の把握 ①地区懇談会による課題把握 ②市内要支援1・2の方のサービスプラン分析（課題把握） ③社会資源の把握（サロンマップ・体操教室の把握）
28年度の取組	○懇談会等で把握した地域課題を解決するしくみづくりの提案 つくみん安心見守りネットワーク ・市内の事業所（新聞、郵便、ガス、水道等）と見守り協定 ・市内の居宅介護支援事業所と協定（入所入院情報を民生委員へ）
29年度の取組	○生活支援に関する事業企画案の検討 ・高齢者の生活課題をボランティアにより支援する仕組みの検討 ・新たな集いの場の検討
30年度の取組	○生活支援に関する事業の立ち上げ ・つくみん困りごと支援センター立ち上げ準備 ・コミュニティ食堂立ち上げ
令和元年度の取組	○生活支援に関する事業の運営 ・つくみん困りごと支援センター試験運用 ・コミュニティ食堂の運営支援

○令和3年度の取組

⑥つくみん困りごと支援センターの運営支援

運営主体…ボランティアグループ「みんなのサポートセンター」

目的…暮らしの中でちょっとした困りごとのある人（利用者）と、ちょっとしたお手伝いのできる人（協力者）が、ご近所さん同士で行う、有料での助け合い活動です。

支援内容…	支援内容	利用者負担金	協力者報酬	センター運営費
	ゴミ出し	1回 100円	1回 50円	1回 50円
	電球交換	1回 100円	1回 50円	1回 50円

活動実績…利用登録者24名（実利用者14名）

協力者登録数…77名（令和4年3月31日現在）

つきみ困りごと支援センター事例

<事例1>

●A女性 一人暮らし 下肢不自由 83歳
 退院後、介護保険のヘルパーサービス（掃除・ゴミ出し・買い物）を利用していましたが、少しずつ体調が改善したため、掃除は自分で、買い物は宅配や移動販売を利用、ゴミ出しは、アパートの2階に住んでいるため、支援の必要があるのに介護保険のセンターを利用することが出来た。
 （※移動販売等は、品物を2階まで運んでくれていた。）

<事例2>

●B男性 一人暮らし 在宅酸素・下肢不自由 74歳
 退院後、介護保険のヘルパーサービス（掃除）を利用、買い物は、市外に住む息子週1回程度支援に来ているが、ゴミ出しは在宅酸素を抱えたままでは困難であり（特に雨降り等）、困りごと支援センターにてゴミ出し支援を利用している。（※ヘルパーの支援はあるが、Bさんの地区のゴミ出し日とヘルパーの支援日の日程が合わずにヘルパーの活用に至らなかった。）

<事例3>

●C女性 一人暮らし 下肢不自由 78歳
 退院後、下肢の状態が悪く、住まいも2階で生活している状況。買い物や掃除は市外の娘が支援をしているが、ゴミ出しは、朝が早く娘も働いているため支援が難しいとのこと、ヘルパーを利用しゴミ出し支援をお願いしようとしていたが、困りごと支援センターの情報を知り、ゴミ出し支援を利用するようになった。よって、介護保険を利用せずに済んだ。

<事例4>

●D女性 一人暮らし 認知症（動作等は健康で問題がない） 92歳
 退院後、在宅で生活するため、介護保険の申請を行うようにしていたが、本人が、デイサービスに行ったり、ヘルパーを家に入れたりすることを拒み、市外に住む子供（長女・長男）が困っていた。食事はコープの宅配弁当と長女の作り置きを食べている。掃除も長女が支援しているが、ゴミ出しは支援が難しく、困りごと支援センターの支援を受けることで、介護保険サービスを利用することなく在宅生活を行えている。（※ゴミ出しの方法は、長女又は長男が週一回交代で夜ゴミの仕分けし、外のポリバケツに仕分けしたゴミ袋を入れておく。朝ボランティアアが回収する。）

⑥コミュニティカフェ・コミュニティ食堂の運営支援

目的…より多くの人たちの社会参加を促すとともに地域からの孤立を防ぐため、身近で気軽に参加でき、ふれあいを深めることが出来る場所や機会の充実を図る取組です。

(1)コミュニティカフェ

カフェ名	場所	回数	一回の人数	備考
じじばハウス	空き店舗(徳浦)	1回	20名程度	地区住民対象
≡二喫茶いっぴく	地区公民館(堅浦)	1回	30名程度	地区住民対象
ホットハートカフェ	地区公民館(彦ノ内)	中止	90名程度	地区住民対象
井戸端会議	地区公民館(赤崎)	中止	13名程度	地区住民対象
田ノ浦カフェ	地区公民館(田ノ浦)	中止	6名程度	地区住民対象
カフェsmileスマイル	地区公民館(志手町)	中止	5名程度	主に障がい者対象

(2)コミュニケーション食堂

食堂名	場所	回数	一回の人数	備考
みんなの食堂	カトリック教会	基本月2回 (令和3年度13回) <small>(夏・冬・暫休月は、週一回)</small>	子どもとその家族 子供27名・家族12名 高齢者18名	主に児童・高齢者等対象

④多機関協働事業

多様で複合的な福祉問題に対して、相談支援包括推進員を配置し、重層的支援会議の中で、関係者や関係機関の役割を整理し、支援の方向性を決定いたしました。

○相談支援包括推進員…3名配置

○重層的支援会議の開催

会議名	件数
重層的支援会議 (同意あり)	2 件
個別ケース会議 (同意なし)	7 件

(内訳)

対象者区分	件数
高齢者一人暮らし男性	1 件
高齢者一人暮らし女性	1 件
高齢の親と同居の母子世帯	1 件
母子世帯	1 件
高齢の親と子の世帯	4 件
40代夫婦と子の世帯	1 件

○重層的定例会の開催

開催日	内 容
令和3年10月25日	①重層的支援体制整備事業の説明 ②意見交換
令和4年3月16日	①重層的支援体制整備事業計画の説明 ②成年後見制度利用促進基本計画の説明 ③地域資源の推進について ④土日・祝日における市役所での相談受付体制について ⑤重層的支援会議のケース紹介について

○重層的支援体制整備事業及び多機関協働についての周知

開催日	内 容
令和3年4月22日	民生委員児童委員協議会総会
令和3年7月13日	川上地区社協研修会
令和3年8月24日	参加支援事業との研修会
令和3年9月21日	参加支援事業との研修会
令和4年3月24日	市内福祉施設事業所等連絡会
その他	職員研修、社協理事会・評議員会

⑤新型コロナウイルス感染症対策事業

新型コロナウイルス感染症の拡大防止に配慮しながら、見守り、サロン活動等を行っている自治会役員・民生委員児童委員・介護予防推進員等や高齢者世帯のゴミ出し等のボランティア活動における、感染拡大防止に必要な消毒液・感染予防手袋・感染予防エプロンの配布並びに備蓄を行いました。

○地区社協並びに自治会配布

配布先	事業内容	個数等	備考
地区社協（26地区）	消毒液	3本(10)×26地区=78本	
その他自治会(未設置3地区)	消毒液	3本(10)×3地区=9本	

○ボランティア協力校

配布先	事業内容	個数等	備考
小中高校（8校）	消毒液	3本(10)×7校=21本 2本(10)×1校=2本	

○コミュニティカフェ

配布先	事業内容	個数等	備考
コミュニティカフェ（6カ所）	消毒液	1本(10)×6カ所=6本	

○コミュニティ食堂・子ども食堂

配布先	事業内容	個数等	備考
コミュニティ食堂	消毒液	2本(10)×1カ所=2本	
子ども食堂	消毒液	2本(10)×1カ所=2本	

○夏のボランティア受け入れ施設

配布先	事業内容	個数等	備考
うばめ園（本園）	消毒液	1本(10)×1施設=1本	
うばめ園（あゆみ）	消毒液	1本(10)×1施設=1本	
とよみ園	消毒液	1本(10)×1施設=1本	

○市社協

配布先	事業内容	個数等	備考
市社協	感染予防手袋	M3箱（100枚）、L3箱（100枚）	
	感染予防エプロン	5箱（30枚）	

合 計	事業内容	個数等
	消毒液	123本
	感染予防手袋	6箱
	感染予防エプロン	5箱

9. 在宅福祉サービス事業

①福祉機器の貸出事業

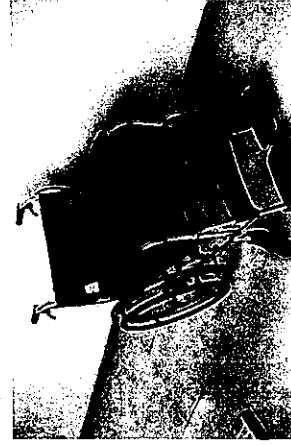
○貸出状況

福祉機器名	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
車イス	41	48	52	65	35	26
ポータブルトイレ	17	9	9	11	11	16
介助バー・入浴グリップ	0	0	0	0	4	0
手押し車	0	0	0	0	0	0
シャワーチェア・浴槽台	0	1	0	2	9	4
松葉杖・杖	0	0	0	0	1	1

<例えばのケース>

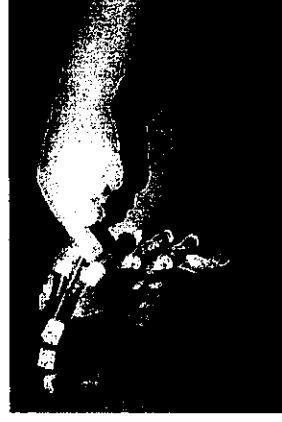
⑩施設や病院に入所や入院をしており、一時的に在宅へ戻る場合

⑪介護保険を利用中であるが、旅行に行くため一週間のみ車椅子を借りたい。



②訪問理美容サービス

在宅で寝たきりの高齢者や障がい者に対して、理美容師を派遣して整髪を行いました。
 ※社協より、理美容師に出張料を支払い、利用者は理美容の店内料金を理美容師に支払います。



年度	実利用者数	延べ利用回数
平成28年度	7名	12回
平成29年度	4名	10回
平成30年度	5名	13回
令和元年度	7名	20回
令和2年度	6名	12回
令和3年度	5名	11回

③ふれあい電話

ボランティアにより、一人暮らしの高齢者世帯へ、月2回電話による安否確認の声かけを行いました。（電話は社協より利用者宅へ行きます。）

年度	実利用者数



平成29年度	8名
平成30年度	8名
令和元年度	8名
令和2年度	6名
令和3年度	6名

10. 啓蒙啓発活動

- ①広報紙「たちばな」発行：年4回発行
- ②ホームページ、フェイスブックの運用
- ③市社会福祉大会の開催：式典・体験発表・講演会

11. 共同募金活動の推進

①共同募金運動

県共同募金会の支会として、募金活動を行いました。

令和3年度実績 3,243,274円

戸別募金	2,520,200円
法人募金	259,000円
職域募金（ボールペン）	389,700円
職域募金（ハッチ）	20,400円
グルメ散歩募金	13,453円
自販機募金	16,929円
その他募金	23,585円
預金利息	7円



②歳末たすけあい募金運動

令和3年度募金実績

1,584,259円（剰余金691,140円を含む）

令和3年度配分実績

配分先	配分金額
就学援助該小中学生支援金（86名）	258,000円
地域交流事業（みんなの食堂）	20,000円
地域交流事業（子ども食堂スマイル）	20,001円
地域交流事業（うばめ園）	60,000円
地域交流事業（ちちんぷいぷいあけぼの）	20,000円
計	378,000円

③生活困窮者支援制度（本会独自制度）

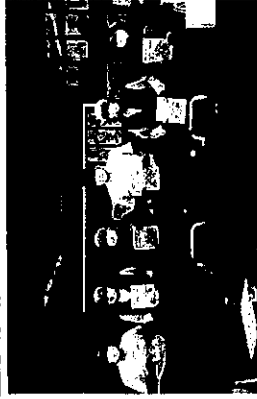
この制度は、歳末助け合い募金を財源とし、緊急的に金銭による支援が必要な世帯で、生活保護制度や生活福祉資金貸付制度等、他法他施策の利用が難しい生活困窮世帯へ現金の貸付を行うことにより、当該世帯の生活の安定と自立を支援

する事業です。

令和3年度貸付実績・・・1件（前年度貸付実績1件）

12. その他事業

①民生委員児童委員協議会の活動支援（事務局）



（民生児童委員PR活動）

- ・ 民児協役員が学校訪問



（専門部会研修会）

- ・ 重層的支援体制整備事業についての研修

②情報の共有のためのネットワーク

民生委員児童委員協議会が取り組んでいる「高齢者世帯実態把握調査」のデータに、市社協が把握している高齢者情報(包括との関わり、サロンの登録情報等)を転記し、民生委員児童委員の活動の支援を行った。

調査数…7,580名

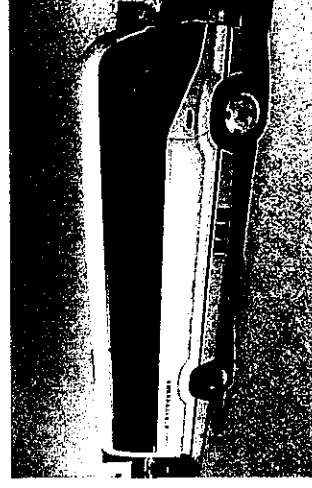
③その他福祉関係団体への活動支援

- … 身体障がい者福祉協議会・盛人クラブ連合会・盛人クラブ連合会・母子寡婦福祉会
子ども会育成連絡協議会・臼津保護司会津久見分区
更生保護女性会・ボランティア連絡会・各ボランティアグループ
各ボランティア協力校・社会を明るくする運動実施委員会
遺族連合会・市内福祉施設事業所等連絡会

④福祉バスの運行

福祉関係団体等の研修会・大会参加時の送迎を行いました。（乗車定員28名）

利用団体名	運行回数		
	R1	R2	R3
ふれあいサロン	47日		0日
高齢者学級	3日		0日
ボランティア登録団体	7日		1日
市役所行事	7日		0日
社協行事（サロン以外）	6日		0日
福祉関係団体	1日		0日
福祉施設	3日		0日
地区社協	6日		0日
盛人クラブ	3日		0日
保育園	0日		0日



平成23年度 運行日数145日
 平成24年度 運行日数156日
 平成25年度 運行日数153日
 平成26年度 運行日数132日
 平成27年度 運行日数117日

民生委員児童委員協議会	1日		0日
遺族連合会	3日		0日
学校関係	1日		0日
その他団体	3日		0日
計	91日	0日	1日

平成28年度 運行日数109日
 平成29年度 運行日数 74日
 平成30年度 運行日数125日
 令和元年度 運行日数 91日
 令和2年度 運行日数 0日
 令和3年度 運行日数 1日

新型コロナウイルス感染症に伴う特例貸付について

貸付対象 新型コロナウイルス感染症の影響により失業したり収入が減った世帯
 貸付種類 緊急小口…原則10万円、最大20万円まで借入可能(原則1回)
 総合支援資金…複数世帯月20万×3か月、単身世帯 月15万×3か月

〃(延長)…プラス3か月(令和3年6月末まで)

〃(再貸付)…プラス3か月(令和3年12月末まで)

(最大(複数世帯)で200万円まで借入可。)

償還(返済)…**令和5年1月**から始まり、緊急小口資金は2年、総合支援資金は

10年以内に償還。ただし、償還開始時に収入減少が続く(住民税非課税)

場合は、償還免除となる。(なお、免除後は自立支援機関の相談継続)

期 間 令和2年3月下旬から令和4年6月末日まで(令和4年3月31日現在)

特例貸付の状況 (令和4年3月31日現在)

特例貸付	令和元年度	令和2年度	令和3年度	件数計	貸付金総額
緊急小口	1	35	35	71	13,130,000
総合支援	1	35	29	65	32,860,000
〃延長		9	11	20	9,600,000
〃再貸付		2	24	26	12,400,000
合計	2	81	99	182	67,990,000

年齢層	延べ人数	実人数
10代以下	0	0
20代	44	18
30代	28	13
40代	21	13
50代	45	20
60代	28	14
70代以上	16	9
合計	182	87

※最初の借入時年齢

最年少 20歳
 最年長 79歳

申請後取下 2件

重複利用	人数
小口のみ	21
総合のみ	9
小口+総合	23
総合+延長	5
小+総+延	5
小+総+再	13
小+総+延+再	11
合計	87

杵築市、北九州市からの転入含む

最大借入 200万円 4世帯
 郵送受付 29

月別貸付件数

	小口特例	総合特例	総合延長	総合再貸付	合計
令和2年3月	1	1			2
令和2年4月	3	0			3
令和2年5月	7	2			9
令和2年6月	3	4			7
令和2年7月	0	1			1
令和2年8月	3	3	2		8
令和2年9月	1	3	0		4
令和2年10月	3	8	0		11
令和2年11月	1	3	1		5
令和2年12月	3	4	2		9
令和3年1月	2	3	0		5
令和3年2月	3	4	1		8
令和3年3月	6	0	3	2	11
令和3年4月	2	4	5	1	12
令和3年5月	3	10	4	2	19
令和3年6月	4	3	2	2	11
令和3年7月	6	2		7	15
令和3年8月	3	6		4	13
令和3年9月	6	1		1	8
令和3年10月	1	2		2	5
令和3年11月	1	1		3	5
令和3年12月	1	0		2	3
令和4年1月	3	0			3
令和4年2月	3	0			3
令和4年3月	2	0			2
令和4年4月					0
令和4年5月					0
令和4年6月					0
	71	65	20	26	182

令和3年度津久見市地域包括支援センター社協事業報告

津久見市地域包括支援センター社協は、高齢者の総合相談窓口として、24時間365日いつでも相談できる体制の更なる充実と、年々複雑化する相談内容に、行政はもとより様々な関係機関と連携しながら対応しているところです。

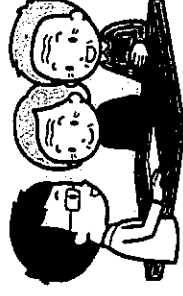
令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、様々な事業を実施することが困難な状況の中、地域のみなさんが気軽に集まり、つながりづくり、元気づくりを進める場として、感染予防対策への対応を確認しながら、ふれあいいきいきサロン事業の充実を図り、それぞれの地域に合わせたサロン活動が行えるよう引き続き支援を行いました。

また、年々増加している認知症の相談支援や、認知症の人や家族を支えるつながりを支援する「にじかフェ（認知症カフェ）」等認知症に関わる支援も、対面式から通信の発送という形に変え、つながりを絶やさずことなく行いました。子供から高齢者まで一人でも多くの方に認知症についての理解を深めていただけたらという、広報活動にも取り組みました。

1、包括的支援事業

(1) 総合相談窓口

介護保険サービスにとどまらず、どのような支援が必要か幅広く把握し、関係機関や制度の利用につなげました。



① 総合相談業務

窓口、訪問、電話相談、夜間休日は転送電話、

24時間365日きめ細やかな対応を行いました。

時間外転送電話による対応件数

時間帯	平成29年	平成30年	令和元年度	令和2年度	令和3年度
平日					
夜間早朝	18件	20件	31件	23件	18件
深夜	0件	0件	3件	1件	4件
日中	118件	95件	117件	88件	95件
夜間早朝	12件	10件	12件	4件	5件
深夜	0件	0件	0件	2件	0件
合計	148件	125件	163件	118件	122件

電話による相談対応

現場にて緊急対応

問い合わせ・連絡調整に対する電話対応

24件 (46件)

2件 (0件)

96件 (72件) () 内は前年度件数

相談内容と件数

相談内容	平成29年	平成30年	令和元年度	令和2年度	令和3年度
介護保険、その他の福祉サービス	438件	410件	378件	366件	349件
権利擁護(成年後見制度等)	12件	21件	10件	5件	3件
高齢者虐待	4件	3件	5件	3件	4件
苦情、法律	0件	0件	0件	2件	0件
その他	133件	101件	66件	136件	159件
合計	587件	535件	459件	512件	515件

② 地域包括支援ネットワーク構築事業

※社協広報紙「たちばな」(年4回発行)、パンフレット、Tシャツ

※社協ホームページ、フェイスブックの活用

※いきいきサロンの出前講座や認知症サポーター養成講座の活用

サロンや講座の開催の際は、包括支援センターの活動について

説明を行いました。

(看護師OBによるサロンでの血圧測定・コロナ禍のため活動なし)

③実態把握業務

※地域ケア会議への取組

3ヶ月に1回地域ケア会議のふりかえりと課題の整理を長寿支援課と一緒に
行い、地域課題の把握を行いました。

(2) 権利擁護業務

安心して生活できるよう、権利擁護のため、

必要な支援を行いました。
相談件数…8件



①成年後見制度の活用促進

認知症等で正しい価値判断ができなくなってしまった方々の利益が守れるよう
制度の活用をすすめました。

- ・広報紙たちはなへの掲載し、広報活動を行いました。
- ・親族申し立ての際は、記入方法や必要書類の取り寄せ等きめ細やかな支援を
行いました
- ・長寿支援課と協議しながら適切な制度の活用を支援しました。

②高齢者虐待の防止と早期発見

高齢者虐待防止連絡協議会・・・年度中の開催はなし

連絡会の開催はなかったが、虐待が疑われる相談に関しては長寿支援課、
社会福祉課と連携しながら対応を行いました。

虐待への対応や早期発見のため、関係機関との連携や情報交換を行いました。

③消費者被害の防止

消費者被害情報収集や関係機関に必要な情報提供を行いました。

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント

高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、介護支援専門員、主治医
関係機関との連携や協力体制を整備、介護支援専門員に対する支援を行いました。

①地域包括ケア会議の開催

在宅医療・介護連携の中で活動をするようになったが、新型コロナウイルス感染症の
影響により活動できなかった。

②介護支援専門員への支援

※研修会

市内居宅介護支援事業所の介護支援専門員への資質向上に関する支援の一つとして
津久見市介護支援専門員協会主催の研修会について内容を協議し、研修会への参加を
行いました。

・テーマ ケアマネジメントの本質についての確認 参加者 22名

・日時 令和3年12月15日 18:00～19:30

・講師 大分県介護支援専門員協会 理事 古賀周一郎氏

・会場 市民ふれあい交流センター 大会議室

※介護支援専門員協会への支援

九州・沖縄ブロック研究大会の開催にあたり、市内事業所へ広告依頼の支援を行い
ました。

※介護支援専門員の相談窓口

自立に向けてのケアプランの作成の指導や、事業所で1人で業務を行う介護支援専
門員からの相談対応等を行いました。また、地域の役員、民生委員や介護予防推進員
を交えた情報共有も含めたケース会議の開催を行いました。

※困難ケースへの同行訪問、支援

居宅介護支援事業所の介護支援専門員からの支援困難事例に関して、関係者や関係
事業所と連携し、必要に応じて同行や見守り対応等の支援を行いました。

(4) 介護予防ケアマネジメント

65歳以上の基本チェックリストに該当する方に対して、介護予防及び日常生活の自立を目的として、心身の状況、置かれている環境に応じて、訪問型サービスや通所型サービスを効果的に利用していただけるよう支援を行いました。

◇介護予防ケアマネジメントプラン作成数 ※ () 内の数字は新規作成件数

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
					包括	居宅
4月	114(5)	110(9)	82(2)	62(2)	53(5)	8(0)
5月	121(5)	110(8)	91(1)	63(1)	53(1)	10(0)
6月	108(2)	109(3)	84(1)	68(4)	55(6)	8(0)
7月	116(5)	107(5)	83(2)	72(3)	58(1)	4(0)
8月	114(3)	104(2)	78(4)	64(2)	58(0)	2(0)
9月	115(9)	96(2)	71(2)	70(1)	58(5)	2(0)
10月	120(2)	112(8)	74(5)	71(6)	60(4)	5(0)
11月	112(5)	110(5)	72(1)	74(3)	60(3)	3(0)
12月	120(11)	104(2)	74(4)	71(3)	59(2)	4(1)
1月	121(8)	103(4)	74(2)	68(2)	61(5)	3(0)
2月	118(4)	98(2)	73(4)	67(2)	55(2)	2(0)
3月	114(3)	102(4)	73(4)	64(1)	54(3)	2(0)
合計	1,393(62)	1,265(54)	929(32)	814(30)	684(37)	53(1)

* 自立支援型のケアマネジメント・短期集中予防サービス（C型）の推進

大分県モデル事業として、ICTを活用した自立支援型ケアマネジメントシステム構築事業に参画しました。

10月29日のケア会議から始まり、月1回1ケース15分を目標に開催しました。タブレットを活用して、8名の利用者さんの情報収集を行いケアプランの作成を行いました。

(5) 地域ケア会議の実施

平成25年度より地域ケア会議開始

隔週開催。1事例30分程度で検討。

専門職（アドバイザー）

- ・理学療法士、作業療法士
- ・管理栄養士
- ・歯科衛生士
- ・薬剤師

専門的な助言により自立にむけた計画作成を行いました。

また、10月からは短期集中予防型サービスに特化したケア会議を開催しました。

開催回数 21回（C型に特化したケア会議4回8名を含む）

※地域課題検討会

3ヶ月に1回地域ケア会議のふりかえりと個別ケースの課題の整理と共有を長寿支援課と行うことで、地域づくりや地域資源の開発を行いました。

(6) 在宅医療・介護連携の推進

* 実施主体である津久見市（長寿支援課）、医師会と連携して事業を行いました。

* 心不全ポイントノートの活用の仕方について4回シリーズで研修に参加しました。

* 退院調整により、在宅への支援につなげました。



2、認知症関連事業

認知症地域支援事業で配置された認知症地域支援推進員の活動により、認知症の人が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう取組を行います。また認知症初期集中支援チームとの連携により初期の認知症の方により専門性を持って対応を行いました。

(1) 認知症地域支援・ケア向上推進事業

①普及啓発活動

※認知症サポーター養成講座の開催

認知症についての知識を深め、認知症を理解していただく取組をしました。

認知症サポーター養成講座開催状況

日付	対象者	参加者	会場
6月17日	手話サークル小鳩	12名	市民ふれあい交流センター
6月24日	手話サークル小鳩	7名	市民ふれあい交流センター
7月30日	民生委員児童委員協議会女性部	13名	市民ふれあい交流センター
10月7日	鳩浦サロン	21名	漁村センター
10月15日	津久見小学校4年生	61名	津久見小学校体育館
11月9日	千怒4部グラウンドゴルフメンバー	15名	広浦公民館
11月19日	千怒小学校4年生	27名	千怒小学校多目的室
12月3日	青江小学校4年生と保護者	51名	青江小学校体育館

開催回数…8回 延べ参加人数…207人

実施内容…認知症の対応等に関するDVDの上映、寸劇、病状、予防についての話し。

おまじまおまじま取組

※街頭活動

9月16日（水）アルツハイマー月間に合わせてリーフレット手作りのフェルトの花の配布を行いました。

- ・マルシヨク、コープおおいた津久見店前
2カ所で219セット配布
- ・ハートの会2名、ボランティア1名、
生活支援コーディネーター、包括職員

※展示

アルツハイマー月間中（9/1～9/30）図書館にてパネル展示と関連書籍の展示を行いました。また、今年度は市役所玄関ホールでも展示を行いました。

※オレンジガーデニングプロジェクト

9月のアルツハイマー月間に合わせて、認知症啓発活動のシンボルカラーであるオレンジ色の花（マリーゴールド）を街中に咲かせようというプロジェクトに参加。事務所でもマリーゴールドの花を咲かせ、次年度に向けて種を収穫しました。

※ケアパス改訂版作成

平成26年度に作成していたものを見直し、改訂を行いました。認知症の進行具合によりどのようなサービス等を受けられるかを一目で分かるように、概要版も作成しケアパスと合わせて利用できるようにしました。

②相談支援事業

認知症初期集中支援チームと連携して、必要な支援を行いました。
認知症関連相談件数 85件（内推進員が関わった件数 33件）

③認知症カフェの開催状況

日付	内容	参加者	会場
4月20日	カフェ	20名	ふれあい交流センター
6月22日	マリーゴールド苗植え	14名	ふれあい交流センター
10月19日	カフェ	12名	ふれあい交流センター
11月16日	カフェ	13名	ふれあい交流センター
12月21日	オカリナ・三線演奏	18名	ふれあい交流センター

開催回数・・・5回 延べ参加人数・・・77人
通信を参加者に送付しました。…12回

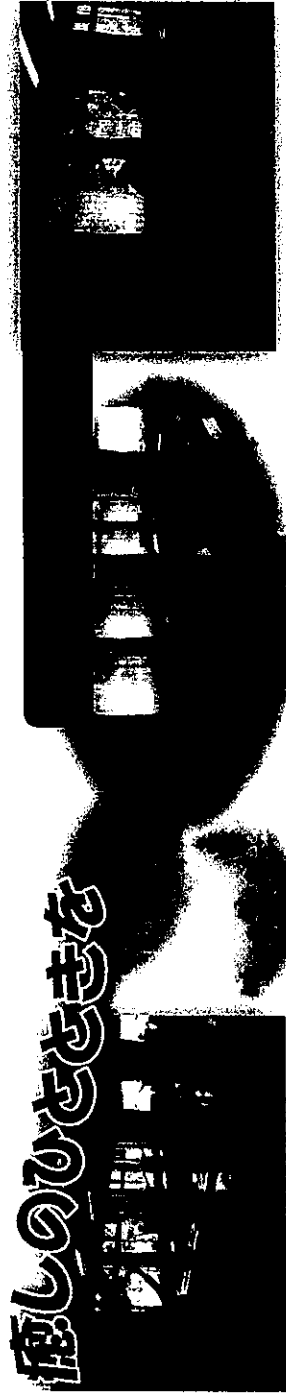


④認知症家族への支援

※介護者のつどいの開催・・・毎月1回第2水曜日10:00～
新型コロナウイルス感染症の影響にて年7回の開催となりました。
開催できない月は毎月発行するお便りを送付しました。

（4月14日、7月14日、10月13日、11月10日、12月1日、1月12日、3月9日）

認知症について理解を深め、介護の悩みを相談、共有するリフレッシュの場として活動を行いました。



⑤各種会議・研修会への参加

認知症地域支援推進員等連絡会議…4回
認知症施策市町村担当者会議…2回
若年性認知症支援者向け研修会…1回
チームオレンジコーディネーター研修…1回
認知症ピアサポート活動検討会議…3回

認知症フォーラム…1回
認知症医療連携協議会…1回
ピアサポーター養成研修会…1回
すいしんいんセッション…1回
認知症初期集中支援チーム会議…1回

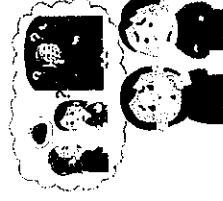
(2) 認知症初期集中支援事業

認知症になってからも本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域の良い環境で暮らし続けられるために、認知症の人やその家族に早期に関わる「認知症初期集中支援チーム」を配置し、早期診断・早期対応に向けた支援体制を推進しました。

訪問支援状況

令和3年度	
訪問対象人数	1名
訪問回数	2回

チーム員会議…1回



3、指定介護予防支援事業

生活上のさまざまな問題を抱えた介護保険における予防給付の対象となる要支援者に、介護予防サービスのみに限らず、ご近所の声かけ、見守りのネットワークをはじめとする「地区社協」の取組等を活かした介護予防計画を作成し計画に基づくサービスが行われているか、事業者等の関係機関との連絡調整を行い、6か月ごとに評価を行いながら、自立に向けた計画づくりを行いました。

*委託先の支援計画について

- ・自立支援へ向けての予防計画の確認、助言
- ・評価、支援記録の管理、確認と意見の記入を行いました。

◇介護予防給付プラン作成状況（新規・継続） ※（ ）内の数字は新規作成件数

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
					包括	居宅
4月	97(7)	83(4)	86(4)	83(3)	60(1)	16(0)
5月	101(6)	83(2)	95(8)	81(0)	59(2)	17(1)
6月	100(3)	87(6)	91(3)	79(1)	63(2)	15(0)
7月	97(5)	86(2)	92(4)	79(2)	64(4)	17(1)
8月	94(2)	84(0)	89(0)	74(1)	67(3)	16(0)
9月	93(2)	88(5)	91(3)	74(6)	63(1)	17(1)
10月	88(2)	85(1)	86(1)	77(5)	67(2)	17(0)
11月	96(6)	84(1)	88(4)	77(2)	68(3)	15(0)
12月	93(4)	86(4)	90(4)	74(3)	68(3)	14(0)
1月	91(3)	81(1)	90(4)	71(4)	72(8)	14(0)
2月	91(1)	83(2)	87(3)	70(7)	52(1)	16(1)
3月	86(2)	85(2)	87(2)	73(1)	74(4)	15(1)
合計	1,127(43)	1,015(30)	1,072(40)	912(35)	777(34)	189(5)

○ 委託状況

「委託」・・・9事業所

(市内) つくみかん居宅介護支援事業所、介護保険サービスセンター白梅荘、居宅介護支援事業所万里、居宅介護支援事業所おあし

こすもすケアプランセンター

(大分市) 居宅介護支援事業所風香、福祉介護保険オフィスあーと、医療生協介護保険サービスセンター健生

(佐伯市) ケアネットきりん

4、介護予防の充実

生活上のさまざまな課題を抱える高齢者に対して、介護が必要になることをできるだけ遅らせ、介護が必要な状況になっても、その状態を維持、改善して悪化させないように行うことで、住み慣れた地域で、活動的で生きがいのある生活ができるような支援を行います。また、介護予防の意義や知識をサロン活動を通じて広め、地域の皆さんのふれあい、交流の場を活性化することで、見守り声かけのネットワークを広げ、安心して暮らせる地域づくりへとつなげていきました。

①総合事業の利用の促進

心身の状況、置かれている環境その他の状況に応じて通所型サービス、訪問型サービス等適切かつ効果的に提供されるよう必要な支援を行いました。今年度は特に短期集中予防型サービス（C型）の推進をICTを活用して行いました。

②ふれあいいきいきサロン事業

生活支援コーナーディネーターと連携して地域ごとのニーズや、地域の実情に応じた介護予防を行いました。

サロン数…61 実施回数…260回 延べ参加者数…4,629人

昨年に引き続き、関係者への感染予防対策の理解と周知を進めるとともに国や県、市の動向に合わせ、感染症予防対策を講じたサロン活動への支援と実践を行いました。

(詳細別紙)

5、災害・感染対策

(1) ケアプラン作成の際のアセスメント時に災害時に必要な情報の収集等を行いました。老朽化した家屋等地震等の耐久性を市の建築業協会の方の協力を得て診断を行い、注意喚起を行いました。

地域の防災状況も確認・把握を行いながら支援を継続しました。

(2) 昨年に引き続き体温測定、マスクの着用、消毒剤の携帯の徹底を図り、行政、関係機関との連携と共有を行いました。他の感染症に関しても同様の対応を行いました。

(別紙)

ふれあいいきいきサロンのコーディネートを通じて各サロンの課題等に寄り添い
 新型コロナウイルス感染症の予防対策への理解と周知に協力いただき、サロンの実
 施内容、開催の方法を提案しながら、めじろん元氣アツク体操をはじめとする体操
 にも取組ました。

令和3年度サロン別参加者実績

	地区(サロン)名	実施回数	各サロンへの参加状況					平均参加人数
			登録者数	延参加者	65歳以上	60～64歳	その他	
1	千怒区	1	189	51	36	1	14	51
2	千怒区(両家)	7	58	110	78	0	32	16
3	千怒区(4部)	1	25	15	12	0	3	15
4	千怒区(6部)	0	10	0	0	0	0	0
5	千怒区(旭町)	9	95	218	214	0	4	24
6	岩屋区(えびす)	12	16	140	140	0	0	12
7	岩屋区(大友)	1	16	12	10	0	2	12
8	岩屋区(高洲)	1	25	17	14	0	3	17
9	宮本区	6	67	201	156	0	45	34
10	彦ノ内区(原、谷川)	5	39	50	49	0	1	10
11	彦ノ内区(路木)	5	55	96	90	6	0	19
12	彦ノ内区(千久中)	5	39	36	31	0	5	7
13	彦ノ内区(成守、文京)	5	19	22	22	0	0	4
14	中田区(ふれあい)	4	35	108	79	6	23	27
15	中田区(盛人ク)	0	76	0	0	0	0	0
16	西ノ内区	6	48	267	249	6	12	45
17	警固屋区(セメント町)	6	21	90	50	12	28	15
18	警固屋区(港町)	4	13	38	34	0	4	10
19	警固屋区(元町)	5	26	84	79	0	5	17
20	警固屋区(井無田町)	5	22	85	61	0	24	17
21	警固屋区(新町)	5	4	19	15	0	4	4
22	川上区(岡町)	1	43	21	13	5	3	21
23	川上区(志手町)	2	44	30	18	0	12	15
24	川上区(中町)	10	13	126	124	2	0	13
25	川上区(小園町)	5	48	83	58	0	25	17
26	川上区(地蔵町)	3	34	66	62	3	1	22
27	川上区(門前町)	1	36	20	17	3	0	20
28	川上区(桜ヶ瀬町)	2	52	53	39	1	13	27
29	青江区(東)	6	45	171	158	7	6	29
30	青江区(西)	6	31	109	86	0	23	18
31	畑区(畑)	12	27	218	178	1	39	18
32	畑区(岩屋口)	9	22	147	133	5	9	16
33	川内区	2	70	63	45	3	15	32
34	入船区(ふれあい)	8	42	254	239	7	8	32
35	入船区(みつば)	5	55	147	140	0	7	29
36	徳浦区(1)	2	186	154	143	2	9	77
37	徳浦区(2)	11	24	197	171	0	26	18
38	徳浦区(3)	6	18	37	28	0	9	6
39	徳浦区(5)	8	30	75	62	0	13	9

40	堅浦区(ひまわりの会)	4	58	56	37	0	19	14
41	堅浦区(なのほな)	3	32	52	33	0	19	17
42	長目区(浦代)	9	17	64	53	0	11	7
43	長目区(長目)	7	15	82	61	0	21	12
44	長目区(釜戸)	2	25	21	12	0	9	11
45	長目区(伊崎)	0	12	0	0	0	0	0
46	長目区(楠屋)	1	11	10	6	0	4	10
47	無垢島区	1	28	23	20	3	0	23
48	日見区	1	96	25	23	1	1	25
49	福良区	1	53	23	14	0	9	23
50	網代区	1	51	21	18	0	3	21
51	江ノ浦区	2	32	42	20	0	22	21
52	赤崎区	1	27	15	12	1	2	15
53	赤崎区(井戸端会議)	1	18	22	18	3	1	22
54	四浦1区(荒代)	12	19	120	118	0	2	10
55	四浦1区(鳩浦)	7	32	172	131	9	32	25
56	四浦2区(刀自ヶ浦)	1	43	9	7	0	2	9
57	四浦2区(深良津)	0	42	0	0	0	0	0
58	四浦3区(落ノ浦)	1	60	16	16	0	0	16
59	四浦3区(田ノ浦)	7	26	76	54	7	15	11
60	四浦6区(高浜)	4	28	68	57	4	7	17
61	保戸島区	2	69	82	80	0	2	41
	合計	260	2,512	4,629	3,923	98	608	18
	令和2年度実績	163	2,557	3,156	2,709	74	372	21

社協・包括職員サロンへの派遣実績

実施月	回数	派遣先
4月	12	日見区サロン 他
5月	1	四浦1区(荒代)サロン 他
6月	2	四浦3区(田ノ浦)サロン 他
7月	8	養国屋区(セメント町)サロン 他
8月	4	旭きずなサロン 他
9月	6	神区(岩屋口)サロン 他
10月	17	川上区(小園町)サロン 他
11月	27	江ノ浦区サロン 他
12月	18	岩屋区(大友町)サロン 他
1月	8	堅浦区(なのほな)サロン 他
2月	5	宮本区(なかよし)サロン 他
3月	9	川上区(志手町)サロン 他
合計	117	

内容

- ・体操
- ・軽スポーツ(ポケットボール、わなげ等)
- ・DVD上映(綾小路きみまろ、三遊亭歌之助等)
- ・脳トレプリント
- ・出前講座
- ・血圧測定
- ・訪問 など

令和3年度サポートセンター竹とんぼ事業報告

令和3年度は、前年度から続く新型コロナウイルス感染症の影響により、訪問や会議、研修会等で感染防止対策の徹底が求められ、まん延防止措置が出た中でも Web を活用して会議や研修会への参加等の対応を行いました。今年度も津久見市より障がい者相談支援事業の業務を受託し、知的障がい者、身体障がい者、障がい児を中心に相談支援を実施し、コロナ禍でも適切に福祉サービス等を利用して、住み慣れた地域でその人らしい自立した生活が送れるよう支援を行いました。また、同様に市より受託している「障がい者に対する虐待防止対策事業」についても、社会福祉課と連携し、障がいに対する理解の促進や障がい者への虐待防止等についての普及・啓発を行いました。

【年間実利用者数（障害区分別）】

	身体障がい	重症心身障がい	知的障がい	精神的障がい	発達障がい	高次脳機能障がい	難病	その他	合計（人）
障がい者	9(-5)	3(+0)	71(+2)	9(-1)	5(+0)	1(+0)	1(+1)	2(+0)	101(-3)
障がい児	0(+0)	2(+0)	12(+0)	1(+0)	2(-1)	0(+0)	0(+0)	4(+2)	21(+1)
計	9(-5)	5(+0)	83(+2)	10(-1)	7(-1)	1(+0)	1(+1)	6(+2)	122(-2)

()内は前年度からの増減

【活動内容】・・・相談支援専門員による個別対応件数 ()内は前年度実績

訪問・同行	来所相談	電話相談等	個別支援会議等	関係機関	その他	合計（人）
261(280)	56(66)	273(252)	132(171)	591(521)	1(2)	1314(1292)

【相談受付】

相談区分	R2	R3
福祉サービス利用等に関する支援	900	953
障害や症状の理解に関する支援	8	10
健康・医療に関する支援	102	142
不安の解消・情緒に関する支援	25	16
保育・教育に関する支援	43	26
家族関係・人間関係に関する支援	47	24
家計・経済に関する支援	22	13
生活技術に関する支援	47	47
就労に関する支援	31	57
社会参加・余暇活動に関する支援	0	0
権利擁護に関する支援	0	6
その他	89	81
合計	1314	1375

【サービス等利用計画】

種別	R2	R3
計画作成	95	83
モニタリング	165	156

【虐待に関すること】

区分	R2	R3
相談受付	0	0
普及啓発活動	18	14



【時間外相談対応件数】

(日中8~18時、早朝夜間6~8、18~24時、深夜0~6時)

平日	土・日・祝日			合計	問合せ調整等
	深夜	日中	早朝夜間		
12	0	7	2	21	15
				6	0
				0	0

【会議等】

◇個別支援会議（83件）

障がいのある方に適切な支援が行えるよう、本人や家族・関係機関等に参加していただき、支援内容等について協議を行いました。

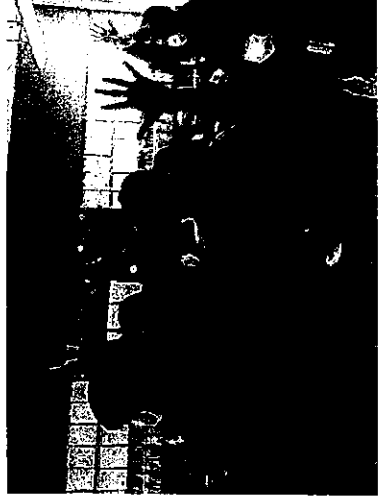
◇地域自立支援協議会（13回）

各部会（地域環境・地域生活・児童・就労支援）に参加し、災害時の対応についての検討や個別事例の検討、市内全ての幼稚園や保育所への巡回訪問等に参加しました。

◇その他の会議や研修（36回）

県障害者相談支援事業推進協議会の研修会や支援学校・就学支援委員会及び調査部会、区分判定審査会等に参加しました。

障がいについて講話（津久見小学校4年1、2組 59名 11月12日）



ふれあいバス旅行、うばめ園まつり等は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため昨年に続き中止となりました。